

災息無病
福招災除

夏越祭

(7月29日)



岡田宮

—(宝永四年)一七〇七 貝原益軒書—

第35号

平成15年7月吉日
発行 岡田宮社務所
北九州市八幡西区岡田町1番1号
郵便番号 806-0033
電話 (093) 621-1898
FAX (093) 621-5330

明治天皇御製

あさみどり澄みわたりたる

大空の広きをおのが心ともがな。

平成十五年七月二十九日

午後六時~九時
(雨天決行)

社頭に設けた茅の輪をくぐれば、悪疫を免れ幸福と繁栄を招来するという古式に則った夏越祭を厳修いたします。

大祓神事 午後六時より

どなたでも参加できます。参列の方には大祓詞をさしあげます。ふるってご参加ください。

当日ご参拝の方に

■「お札」と「茅」を授与いたします。

■魔除けとして玄関に奉齋して下さい。

■無病息災・除災招福御神酒接待

ご参拝の方に御神酒をご奉仕いたします。

■総当たり福引き・かき氷

地元青年会の屋台がたちます。

いづれも一回100円

■アニメ上映



無料券

当日この券をご持参ください
福引き・かき氷のいづれか
1回が無料になります。

神社総代研修会

三月二十九日(土) 晴

片田一夫・梶原章旺総代会副会長
以下四十五名を乗せたバスは二時間
かけて、熊本市水前寺公園内鎮座の



出水神社に到着しました。

出水神社は明治十一年(一九七八)に創建されました。御祭神は藩祖細川藤孝公以下歴代藩主、並びにガラシヤ夫人です。正式参拝終了後、松井葵之宮司様より神社の由緒や宮本武蔵のお話をしていたきました。

午後からは、宮本武蔵の遺品を収集している島田美術館へ。NHKの大河ドラマにも出ている、あの有名な「枯木鳴鶴図」を始め、貴重な品々を拝観しました。

今回も多くの神社に関する研修をしてまいりましたので、今後の神社運営に反映していきたいと思えます。



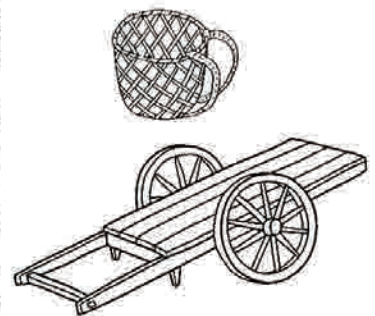
郷土地名考

35

槻田(つきだ)

中世到津郷は高槻、荒生田、井堀、到津、中原、金田、日明、菜園場をふくむ広い領域で豊前国企救郡にふくまれていた。小倉藩では十四か村。一八八七年(明治20)の町村合併で高槻村、荒生田村を合わせて槻田村は、いうまでもなく合成地名。元和人畜改めで大庄屋に高月孫次郎、高槻とも高月とも書いた。小倉藩は小笠原になって到津に鷹屋敷。タカツキは鷹突き、鷹取と関係がないだろうか。荒生田は別掲。

文政の頃、隣の筑前大蔵村と高槻村が境界をめくり喧嘩して、筑前道を封鎖してしまつた。このため田代村の村民が飛ばつちりを受け小倉に往來できず、やむなく小倉藩領の三岳を経て小熊野に通じる道を作つた。この争いは境界改めの切り絵図が証拠になり大蔵村の負けになつてゐる。



大正五年、槻田の一部、同十五年には全部が八幡市に合併した。

仙房(せんぼう)

戸畑の千防に対してこつちのセンボウは到津遊園地の前、小倉北区に突き出した一角、板櫃川の両側になる。明治十五年の小字にも仙房。板櫃川は急流の瀬で、瀬をセンと呼ぶ。センの傍らに庵があったからという解釈はどうだろうか。住居表示で昭和町に組み込まれ、仙房橋の名だけ残る。

神さまの存在を示す神社

「神さまって本当にいるの？」と子供さんから聞かれたら、どうお答えになりますか。大人でさえもこうした疑問を内心で抱いている人は多いものです。

占米、神の存在について、いろいろと論議されてきました。特にキリスト教的唯一絶対神の存在の有無、存在説明については哲学的、神学的にさまざまの説明がなされています。

しかし、この証明とは、現実に神の存在を信じている人々の信仰を理性によって根拠づけるために行なわれるものであって、まず初



清らかな境内

めに信仰ありき、という事実があつてこそそのものなのです。

神社の神さまもその例に洩れませぬ。日本の神々の存在を信じ、神々が存在するからこそ、神社が現に設けられているのですから、もし神々が存在していなければ、神社を設ける必然性はどこにもないはずです。

神社が存在し、そこにある特定の神さまがまつられているという事実は、いかに人間がその思弁によって神の有無を論じたところで消え去ることはありません。

小さな子供に、「神さまはいるの？」と聞かれたら、「神さまがいらつしやるから、神社があるんだよ」と教えましょう。

神さまは口には見えませんが、神社という施設を中心にして、そこで連綿として祈願と報賽のお祭りがなされてきた事実が、神さまの存在と神さまの働きを示していることをまず教えるべきでしょう。

神社 なぜ 問答

(その35)

Q 初宮参りの意味などについて教えて下さい。

A 子供の誕生に際しては、命名やお七夜、お食初めや初節供など、成育の無事を願うさまざまな行事がおこなわれます。こうした中でも、初宮参りは初めて氏神さまに参詣することで、新生児が公的な場に外出する最初の機会ということもあり、華やかにおこなわれる行事となっております。

初宮参りの時期については、男子が誕生後三十一日、女子が三十二日目に参るのが一般的なようで、この期間は母子の産屋明けの期日であるともいわれております。しかし、百日目のお食初めでおこなうところもあるなど、地方によって日時が異なり、必ずしも一様ではありません。

現在では特に厳密ではなく、各地方で伝えられた期日後の良き日を選んでお参りする方が多いようです。

初宮参りの意味については、一つは氏神さまにお参りするこ

とにより、誕生した子供を氏子の一員として承認してもらうこと。二つ目には、未だ生命が不安定な状態にある新生児が、氏神さまの大稜威（おのみいつ）により力強い生命力を得て、無事に成育することを祈願すること。また三つ目には、子供が産土神（うぶすながみ・氏神さま）の御分霊を賜り、この世に生を享けたとする信仰に基づき、これに感謝をするという意味があるといわれています。

初宮参りの際に、魔除けと称して子供の額に紅で印を付けるなど、呪術的なことがおこなわれたり、産の神であると言はれている便所神（かわやがみ）をお参りするなど、地域によりさまざまな風習が見られますが、子供の健やかなる成育を祝福する行事であるということに変わりはありません。



編集部より 神道についての素朴な疑問等を募集しております。神社本庁教学研究部の協力でお答えします。御質問は紙面の都合上、基礎的な質問に限らせていただきます。質問者名等は掲載いたしません。お名前、御連絡先は忘れずにお願います。

七五三

七五三祭は、子供の成長にともない折り目、折り目に神社にお参りして、いっそうの息災成長を祈る行事です。

三歳の男子女子の祝いを髪置、五歳の男子の祝いを袴着七歳の女子の祝いを帯解きなどと称しますが、これらの名称や、その年齢は地方により、時代によって必ずしも一定しません。ともあれ、七五三は江戸時代から、広く行われた行事で岡田宮では、十一月十五日を当日とし、その後を通じてにぎやかなお参りが行われます。

なお、平成十五年の七五三の年齢は、左記のとおりですので、ご家族おそろいでお参り下さい。

記

三歳 平成十三年生 (かぞえ齡)

平成十二年生 (満年齢)

五歳 平成十一年生 (かぞえ齡)

平成十年生 (満年齢)

七歳 平成九年生 (かぞえ齡)

平成八年生 (満年齢)

※年齢はかぞえ年でも、

満年齢でもかまいません。

※毎日午前九時より午後五時

まで受付をしています。



子供の声

まだ子どものこちがする
大きいものに抱かれたい
大きいものにあまえた
いなんでもまかせて頼りたい

まだ子どものこちがする
今がすべての初まりだ
勉強も これから

仕事も これから
大きくなったら 偉くなる

岡田宮新役員

責任役員 岡石 実夫
 総代会理事 佐々木 實
 総代会理事 妹尾 實

楽しい雰囲気・明るくスタジオ

(株) **有川** 写真館

岡田宮内にスタジオ完備
宮参り・七五三など

撮影時、衣装無料でお貸しします。

☎ 0120-62-2080

写真館

PePe

北九州プリンスホテル ペペ2F

インドアプール前にオープン
各種衣裳取り揃えております。

☎ 0120-620-753